

コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整(改修)

2節 下地調整

7.2.1 施工一般

塗替えて、表 7.2.1 から表 7.2.7 までのRB種の場合の既存塗膜の除去範囲は、特記による。特記がなければ、劣化部分は除去し、活膜部分は残す。

7.2.6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の下地調整

(1) コンクリート面及びALCパネル面の下地調整は表7.2.5により、種別は**特記**による。**特記**がなければRB種とする。ただし、8節[耐候性塗料塗り(DP)]の場合は、(2)による。

表7.2.5 コンクリート面及びALCパネル面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—		—		ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—		—		ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○		—		素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—		—		4章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は 特記 による。
4 吸込み止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂 エマルジョンシーラー	—	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
5 下地調整塗り	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1C-2 CM-2 又はE	全面に塗りつけて平滑にする
	—	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1C-2 CM-2 又はE	既存塗膜の除去部分の不陸を調整する
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
6 研磨紙刷り	○	○	—		研磨紙P120~220		乾燥後、表面を平らに研磨する
	—	—	○		研磨紙P240~320		
7 パテしごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り、平滑にする
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
8 研磨紙刷り	○	—	—		研磨紙P120~220		乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1.コンクリート面の場合は、工程4を省略する。

2.合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

3.工程5の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2又はEの使い分けは、4.5.5[既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整]の(ア)及び(ウ)による。

なお、ALCパネル面において、下地調整塗材Eを用いた場合、工程4を省略する。

【4.5.5 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整】

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は次による。

(ア) コンクリート面の下地調整は、次による。

(a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(b) 下地面の清掃を行う。

(c) 下地調整塗材 C-2 を、1~2mm 程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(d) 下地の不陸調整厚さが1mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。

(e) 下地の不陸調整厚さが3mm を超えて 10mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 CM-2 を平滑に塗り付ける。

(ウ) ALCパネル面の下地調整は、次による。

(a) 下地面の清掃を行う。

(b) 合成樹脂エマルジョンシーラーを全面に塗り付ける。ただし、下地調整塗材Eで代用する場合は、省略することができる。

(c) 仕上塗材の製造所の仕様により下地調整塗材C-1又は下地調整塗材Eを全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、外装薄塗材S仕上げの場合は、下地調整塗材 C-2 を全面に塗り付けて、平滑にする。